府がくやく便り　NO,７　2008．１０．１．

「薬物乱用防止」に関する基本の情報と最近の情報

薬物乱用を根絶し、保健衛生上の危害などの防止をすることを目的

第三次覚せい剤乱用期の到来に対し、その早期終息に向けて緊急に対策を講ずるとともに、世界的な薬物乱用問題の解決に我が国も積極的に貢献するために国は、薬物乱用防止５カ年戦略（平成１０年～）、薬物乱用防止新５ヵ年戦略（平成１５年７月～）を策定した。

目標１	中・高校生を中心に薬物乱用の危険性を啓発し、青少年の薬物乱用傾向を阻止する。
目標２	巧妙化する密売方法に的確に対処し、暴力団・一部不良外国人の密売組織の取締りを徹底する。
目標３	密輸を水際でくい止めるとともに、薬物の密造地域における対策への支援などの国際協力を推進する。
目標４	薬物依存・中毒者の治療と社会復帰を支援し、再乱用を防止する。

平成 20 年８月２３日「第 17 回薬物乱用防止研修会」国士舘大学にて、基調講演厚生労働省違約食品局監視指導課麻薬対策課長補佐　安田尚之様より

麻薬の引き起こす問題として、保健衛生上の問題（健康被害）と治安・社会面での問題（社会的被害）があげられる。日本そして世界の状況と対策についての話より抜粋

- 全世界における薬物乱用者の数は２億人（１年間に薬物に接触した人）、問題を起こす人は２６００万人と言われている。
- 薬物中毒死、注射器の回し打ちによるＨＩＶや肝炎ウイルスへの感染の広がりが問題。
- 違法薬物の密造、密売による不正収益がテロリストの資金源となっている。現在の栽培地：アヘンの９５％はアフガニスタンで作られヨーロッパに密輸。コカインは基本的にアンデス３国（ペルー・ボリビア・コロンビア）から USA へ、最近は西アフリカから欧州、USA へ。覚せい剤は、東南アジア、フィリッピンから日本へ。MDMA は北米・欧州から日本。
- 栽培や製造、流通に関わる国にも乱用者が発生。旧植民地（中央・西アフリカ）と植民地にしていた国の間にマフィアによるネットワークができ（言葉の壁がない）国際的な組織として暗躍している。
- 移動手段向上により、長距離移動が可能なため、現在はミックスドラッグ状態である。
- 日本の特徴は、覚せい剤が８割、その５５％が再犯者、MDMA は若年者に拡大している（乱用者の６～７割がＭＤＭＡである）
- 近年では、携帯電話やインターネットの本格的普及。ＭＤＭＡ（通称エクスタシー）等錠剤型合成麻薬や大麻、あるいはいわゆる「脱法ドラッグ（マジックマッシュルーム・クリナー等)」、向精神薬（一時リタリン）等多様化。
- 意識・立場の違いの違い【日本】：薬物不寛容政策。需要削減。乱用しないよう啓発。【欧州】：乱用者は者期の被害者。乱用者の人権にも配慮が必要。目の前の問題解決。
- 世界的認識：世界的犯罪の中の一つと位置づけ、被害を少なくする。他の犯罪と銃・人身売買・組織犯罪及びテロとの関係整理。薬物栽培対策として、「地域開発」と「教育」と連携させる。合成物質は、原料対策(どこで作られたのか？)や規制を進める。（国として安定していないと、マフィアに入って不法取引に手を染める結果となる。）
- ２００９年、薬物に関するハイレベル会合がウイーンにて開催予定。

以上のような話がありました。今後の薬物乱用防止活動の参考にしてください。

文責　　京都府学校薬剤師会　守谷まさ子